



【プレスリリース】

報道関係各位

2025 年 4 月 16 日

済生会横浜市東部病院「ロボット手術センター/消化器外科」
「ダビンチ SP」による肝臓がん・大腸がん手術実施
肝臓がんは神奈川県初！大腸がんは全国 8 番目
「ダビンチ Xi」による食道がん手術も開始

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市鶴見区、院長三角隆彦 以下、当院）は、3 月 3 日に最新型手術支援ロボット「ダビンチ SP」による肝臓がん手術を神奈川県で初めて実施しました。昨年 12 月には大腸がん手術を全国で 8 番目に行い、さらには従来の「ダビンチ Xi」を用いた食道がん手術も今年 1 月に開始。低侵襲で精度の高い治療を提供しています。

■ ダビンチ SP 導入の背景と意義

当院は、患者さんの身体的負担を軽減する低侵襲手術に積極的に取り組んでいます。ダビンチ SP は単一の切開部位（シングルポート）からロボットアームを挿入し、精密で高度な手術を行える最新型手術支援ロボットです。



特に肝臓がん・大腸がんの手術においては、従来の開腹手術と比べて以下のメリットがあります。

- 低 侵 襲 性 : 切開を最小限に抑え、体への負担を軽減
- 早 期 回 復 : 術後の痛みが少なく、入院期間が短縮
- 高精度な操作 : 3D 高解像度の視野と精密なアームにより複雑な手技を実施



（次頁につづく）

＜本件についてのお問い合わせ先＞

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当: 波多野・荒木・吉村

電話: 045-576-3000

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3 丁目 6-1

Email: koho@tobu.saiseikai.or.jp



■ 執刀医からのメッセージ



外科部長

西山亮（にしやまりょう）

東京医科大 2005 年卒

安全性、根治性を損なわないダビンチ SP による肝臓がん手術

当院では、最新の手術支援ロボット「ダビンチ SP」を用いた肝臓手術を導入しました。これにより、従来の手術方法と比較して、より低侵襲な手術が可能となります。ダビンチ SP は、単一の小さな切開部位からロボットアームを挿入し、広い可動域と高解像度の 3D 視野を活かして手術を行うことができる革新的なシステムです。肝臓は複数個所の病変を切除する場合があります。このようなケースではダビンチ SP のアームが切除部位に対して自由に動けることが大きなメリットになります。

ダビンチ SP を使用した肝切除は安全に実施可能であると考えられますが、デバイスがまだ少ないという課題があります。現時点では、難易度の低い腫瘍位置や小範囲切除に適していると考えていますが、今後は高難度手術への応用にも期待できます。外科では安全性（まずは安全が最優先！）、根治性（がんを取り切ること！）を損なわない範囲で積極的に低侵襲鏡視下手術を取り入れています。この技術の導入により、患者さんの負担を軽減し、術後の回復を早めることが期待されます。当院では、経験豊富な外科チームが最先端の医療技術を活用し、患者さんにとって最適な治療を提供できるよう努めております。



外科医長

山田 暢（やまだ とおる）

慶應義塾大 2008 年卒

当院におけるダビンチ SP を用いた大腸がん手術につきまして

ダビンチ SP を用いることで、多くの大腸がんの方の手術を 1 カ所のみの傷で手術することが可能になります。これにより、患者様の整容性に配慮した手術が可能になるだけでなく手術時間の短縮も期待されています。また、当院ではすでに多くの大腸がん手術をダビンチ SP で施行しており、ダビンチ SP に特化した手術指導医の資格（プロクター資格）も取得しているため、より多くの患者様に安心して手術を受けて頂けると考えています。

<本件についてのお問い合わせ先>

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当：波多野・荒木・吉村

電話：045-576-3000

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3 丁目 6-1

Email: koho@tobu.saiseikai.or.jp



<済生会横浜市東部病院ロボット手術センター紹介>

済生会横浜市東部病院のロボット手術センターは、最新の手術支援ロボット「ダビンチ SP」と「ダビンチ Xi」を導入し、泌尿器科、外科、呼吸器外科、産婦人科など多岐にわたる領域で手術を実施しています。当センターでは、2025年2月までに2,600件を超える手術実績があります。また、公式キャラクター「ロボてくん」を通じて、ロボット支援手術を身近な治療の選択肢として広める取り組みも行っています。

■ ロボット手術センター長からのメッセージ

ダビンチ SP による手術は、創が少ないという目に見える形のメリットがあります。また、切除や修復をする目標の臓器に至る体内の操作においても、従来のロボットより切開する範囲を狭くできるなど、侵襲（体への負担）をより少なくすることができます。

新しいダビンチ SP とダビンチ Xi、それぞれの機種の特徴を活かして、最適な治療を提案してまいります。



ロボット手術センター長
前立腺治療センター長
泌尿器科部長
石田 勝（いしだ まさる）



ロボット手術センターサイト

<https://www.tobu.saiseikai.or.jp/robotic-surgery-center/>



済生会横浜市東部病院ロボット手術センター

公式キャラクター「ロボてくん」

<本件についてのお問い合わせ先>

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当: 波多野・荒木・吉村

電話: 045-576-3000

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3 丁目 6-1

Email: koho@tobu.saiseikai.or.jp